

市政トピックス

定禅寺通エリアの新しいまちづくりが始動―基本構想手交式

4月28日、定禅寺通エリアの将来像を共有し、実現するための指針である「定禅寺通エリアまちづくり基本構想」が、定禅寺通活性化検討会から都市長に提出されました。この検討会は、エリア内の町内会やまちづくり団体等で構成され、平成30年からエリアのさらなる魅力向上のため、道路空間の利活用と再構築に向けた社会実験などに取り組んできました。3月に、検討結果の取りまとめとして基本構想を策定。基本構想ではまちづくりの目的を「定禅寺通エリアが、『杜の都』のシンボルであ



▲手交式は晴天の下、若葉がまぶしい定禅寺通中央緑道で行われました

り続け、将来にわたって人々を惹きつけ、仙台都心の回遊を促し、仙台の都市ブランドの向上に貢献する」としています。この目的の下、「ひと中心の空間づくり」を進めることや、2030年までには実現したい空間イメージ、道路空間の考え方が示されています。手交式では、基本構想の概要が説明されたほか、「定禅寺通街づくり協議会」と「一般社団法人定禅寺通エリアマネジメント」から成る新たなエリアマネジメントの推進体制も紹介されました。検討会の田村忠嗣会長は「基本構想を策定できたのは、地域の方々の協力のおかげ。ケヤキ並木の美しい定禅寺通が、より多くの方に愛される場所になるよう、今後も地域の方々と協力しながらこのエリアを盛り上げてほしい」と、これまでの活動を振り返るとともに、新体制への期待を語りました。

市のごみ減量キャラクター「ワケルくんファミリー」がデザインされた特製ペットボトル飲料が、5月10日に発売されました。市ではプラスチックの資源循環を進めており、その取り組みの一環として、使用済みの製品を同一種類の製品にリサイクルする「水平リサイクル」で作られたペットボトルが使用されています。

市政トピックス

「ワケルくん」デザインペットボトル飲料でリサイクル推進!

家庭から収集した使用済みペットボトルを、年間約1億本のペットボトルに水平リサイクルする取り組みを4月から開始しました。ラベルでは、ワケルくんファミリーが取り組みを紹介。資源循環を「見える化」し、分別・リサイクルへの協力を呼び掛けることで、意識の向上を図ります。

3年ぶりに杜の都をランナーが力走

5月8日、「仙台国際ハーフマラソン 2022チャレンジレース」が開催されました。3年ぶりの開催となった今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、種目をハーフマラソンのみとし、出場者数も例年の1万人から4千人に制限するなど、規模を縮小した「チャレンジレース」として行われました。

市政トピックス

お出掛けついでに楽しく健康づくり

4月23日に、イオンスタイル仙台卸町で「地域でつながる健康づくりフェアin卸町」が開催されました。これは、市がイオン東北株式会社等と連携し、運動や外出の機会が少ない高齢者に、健康状態を把握したり体を動かしたりする機会を身近な場所で提供することで、地域での自主的な健康づくりにつなげることを目的に行ったものです。



▲健康増進センターが実施した体操教室。椅子に座りながらできる簡単なストレッチやリズム体操を行いました

市政トピックス

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設が入館者5万人達成

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設の入館者が、5月9日に5万人に達しました。この施設は、平成29年7月28日に、史跡陸奥国分寺跡地内に開館。国分寺と国分尼寺の創建の歴史等を、発掘調査で出土した遺物や解説パネルなどで紹介しています。

3.11 震災文庫

「データを紡いで社会につなぐ―デジタルアーカイブのつくり方」

渡邊英徳 / 著 講談社 刊

本書は、デジタルアーカイブ研究者の渡邊英徳さんが携わってきた「ナガサキ・アーカイブ」「東日本大震災アーカイブ」などのプロジェクトを紹介した一冊で、プロジェクトを進めるに当たったコンセプトや信念が述べられています。

その活動に一貫しているのは、渡邊さんが「もう一つの地球」と呼ぶ「グローバルアース」(※)上に、歴史的な出来事に関わる人の営みや思いをのせるということ。記録や証言を体験的に辿ることが出来るアーカイブを作る過程で、プロジェクトにさまざまな世代や立場の人が集い、それぞれが記憶を継承するコミュニティになってきたケースもあるといいます。

データをを使って震災を語り継ぐアイデアが詰まった一冊です。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585

「復興のための記憶論―野田村被災写真返却お茶会のエスノグラフィ―」

宮前良平 / 著 大阪大学出版会 刊

「復興のための記憶論―野田村被災写真返却お茶会のエスノグラフィ―」

記録に対する2つのアプローチ 三條 望

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」。

記録に対する2つのアプローチ 三條 望

「復興のための記憶論―野田村被災写真返却お茶会のエスノグラフィ―」

災害と記憶に関する研究を行っている宮前良平さんは、岩手県野田村を拠点とするボランティア「チーム北リアス」に参加し、被災した写真の返却活動に携わってきた方です。

その経験から、宮前さんは「復興とは、過去の現実と良好な関係を取り結ぶこと」と述べます。そして一人一人が持つ、言葉では語り得ない固有の記憶を想起し、取り戻す機会をつくるのが人の復興につながることを、写真返却お茶会」の事例を挙げています。大切なのは、現在から過去を振り返るのではなく、写真を通じて過去の時点に立ち戻ること―「復興のための記録の在り方」という大事な視点を本書が与えてくれます。

※インターネット上で利用できる、衛星写真で構成されたデジタル地球儀